

「堺市生活保護世帯の大学生等に対する生活実態調査」結果の概要

堺市内在住の生活保護世帯の大学・短期大学・専修学校に通学している学生（以下「大学生等」という。）を対象として、生活保護世帯の大学生等の生活実態や奨学金の借入状況などを明らかにすることで、大学生等の支援体制の充実を図ることを目的として実施した「堺市生活保護世帯の大学生等に対する生活実態調査」の結果の概要である。

学生の収入状況、学生生活費、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、学生の不安や悩みの項目について取りまとめている。

<調査の概要>

1 調査名

堺市生活保護世帯の大学生等に対する生活実態調査（以下「堺市調査」という。）

2 調査基準日

平成 28 年 10 月 1 日

3 調査期間

平成 28 年 10 月 1 日～平成 28 年 12 月 27 日

4 調査方法

対象となる者がいる全ての世帯に対し、家庭訪問により調査の趣旨を説明の上調査票を配布し、直接若しくは郵送により回収

5 対象

基準日（平成 28 年 10 月 1 日）時点で、大学、短期大学、専修学校（以下、大学等という。）に在籍しており、市内の生活保護世帯で同居しており、厚生省社会局長通知「生活保護法による保護の実施要領について」（昭和 38 年社発第 246 号）第 1-5-(1)～(3)に基づき世帯分離を行っている者（168 人）

6 回収結果

有効回答数 106 人（回収率 63.1%）

（注）1 本調査における学生生活費は学費と生活費とを合わせたものである。

学 費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計

生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費の合計

2 本調査結果の集計各表は端数処理（四捨五入）後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。

3 質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計の際に集計対象から外したものがあ

4 本調査の分析にあたっては、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が全国の学生を対象に平成 26 年 11 月に実施した「平成 26 年度学生生活調査（以下「JASSO 調査」という。）」における「大学（昼間部）」の「自宅生」の結果と比較している。

1 学生の収入状況

学生の収入状況について、生活保護世帯の大学生等は年間 1,810,800 円となっており、JASSO の調査結果（年間 1,798,900 円）との差はあまりない。しかし、生活保護世帯の大学生等は家庭からの給付が得られない分、奨学金に頼らざるを得ない状況となっている。

（図表 1）学生の収入状況（単位：円）

| 堺市調査(平成 28 年) | | JASSO 調査(平成 26 年) | |
|---------------|-------------|-------------------|--|
| 区分 | | 平均額 | |
| 家庭からの給付 | | 117,600 | |
| 奨学金 | | 1,278,200 | |
| (内訳) | 日本学生支援機構奨学金 | 1,103,700 | |
| | 大学給付奨学金 | 41,300 | |
| | 大学外給付奨学金 | 6,400 | |
| | 他貸与奨学金 | 126,800 | |
| アルバイト | | 388,100 | |
| 定職収入 | | 0 | |
| その他 | | 26,800 | |
| 年間の収入合計 | | 1,810,800 | |
| 家庭からの給付 | | 1,011,900 | |
| 奨学金 | | 371,000 | |
| アルバイト | | 359,900 | |
| 定職収入 | | 56,100 | |
| その他 | | 56,100 | |
| 年間の収入合計 | | 1,798,900 | |

2 学生生活費（学費と生活費の合計）

学生生活費について、生活保護世帯の大学生等は年間 1,810,800 円となっており、JASSO の調査結果（年間 1,677,100 円）との比較では、就学関係費（授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計）に大きな差は見られないが、生活保護世帯の大学生等の方が、食費や保健衛生費において高い値が見られる。

（図表 2）学生生活費（単位：円） ※100 円未満の値は四捨五入

| 堺市調査(平成 28 年) | | JASSO 調査(平成 26 年) | |
|---------------|-----------|-------------------|--|
| 区分 | | 平均額 | |
| 就学関係費 | 授業料 | 929,000 | |
| | その他の学校納付金 | 107,300 | |
| | 修学費 | 106,500 | |
| | 課外活動費 | 31,300 | |
| | 通学費 | 105,400 | |
| 食費 | | 120,100 | |
| 住居・光熱費 | | 900 | |
| 保健衛生費 | | 49,800 | |
| 娯楽・嗜好費 | | 104,000 | |
| その他の日常費 | 通信費 | 91,900 | |
| | その他 | 89,800 | |
| | 貯金 | 74,700 | |
| 年間の支出合計 | | 1,810,800 | |
| 就学関係費 | 授業料 | 958,200 | |
| | その他の学校納付金 | 137,700 | |
| | 修学費 | 49,600 | |
| | 課外活動費 | 31,200 | |
| | 通学費 | 102,400 | |
| 食費 | | 97,500 | |
| 住居・光熱費 | | ... | |
| 保健衛生費 | | 36,600 | |
| 娯楽・嗜好費 | | 129,700 | |
| その他の日常費 | | 134,200 | |
| 年間の支出合計 | | 1,677,100 | |

3 学生のアルバイト従事状況

学生のアルバイト従事状況について、JASSO の調査結果との比較では、生活保護世帯の大学生等の方がアルバイトに従事している割合は高い。また、生活保護世帯の大学生等は、授業期間中と長期休暇中のアルバイトの従事日数に変化があまり見られない。

(図表3) アルバイトに従事している学生の割合 (単位：%)

| 区分 | 堺市調査(平成 28 年) | JASSO 調査(平成 26 年) |
|---------------|---------------|-------------------|
| アルバイトに従事している | 82.5 | 73.2 |
| アルバイトに従事していない | 17.5 | 26.8 |

(図表4) アルバイトに従事している学生の従事日数別割合 (単位：%)

| 堺市調査(平成 28 年) | | | JASSO 調査(平成 26 年) | | |
|---------------|----------|---------|-------------------|----------|---------|
| 区分 | | 従事日数別割合 | 区分 | | 従事日数別割合 |
| 授業 期間 中 | 不定期的にした | 18.8 | 授業 期間 中 | 不定期的にした | 13.4 |
| | 週に1～2日した | 15.3 | | 週に1～2日した | 36.7 |
| | 週に3日以上した | 65.9 | | 週に3日以上した | 49.9 |
| 長期 休暇 中 | 不定期的にした | 20.0 | 長期 休暇 中 | 不定期的にした | 16.2 |
| | 週に1～2日した | 11.8 | | 週に1～2日した | 16.7 |
| | 週に3日以上した | 67.4 | | 週に3日以上した | 67.2 |

4 奨学金の受給状況

奨学金の受給状況について、生活保護世帯の大学生等における 86.6%は日本学生支援機構の奨学金を利用しており、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）を併用している学生が最も多い。

JASSO の調査結果では、家庭からの給付や授業料の減免制度の利用等の理由により、奨学金が必要ないと回答した学生の割合が 41.7%であったところ、生活保護世帯の大学生等においては 5.2%であった。

(図表5) 日本学生支援機構の奨学金利用状況 (単位：%)

| 堺市調査(平成 28 年) | | | JASSO 調査(平成 26 年) | |
|---------------|------------|------|-------------------|------|
| 区分 | | 割合 | 区分 | 割合 |
| 受給している | | 86.6 | 受給している | 51.3 |
| (内訳) | 第一種を利用 | 16.5 | | |
| | 第二種を利用 | 30.9 | | |
| | 第一種と第二種を併用 | 39.2 | | |
| 申請したが不採用 | | 2.1 | 申請したが不採用 | 1.2 |
| 希望するが申請しなかった | | 6.2 | 希望するが申請しなかった | 5.8 |
| 必要ない | | 5.2 | 必要ない | 41.7 |

5 学生の不安や悩み

学生の不安や悩みについて、多くの項目において、生活保護世帯の大学生等と JASSO の調査結果との間に大きな差は見られない。

しかし、経済的に勉強を続けることが難しいと感じている学生の割合については、生活保護世帯の大学生等においては JASSO の調査結果の約 5 倍の割合を示している。

一方で、卒業後にやりたいことがみつからないと感じている学生の割合については、生活保護世帯の大学生等の方が低くなっており、目的意識をもって就学している生徒が多いと推察される。

(図表6) 学生の不安や悩み (単位：%)

| 区分 | | 大いにある | 少しある | あまりない | 全くない | 無回答 |
|------------------------|----------|-------|------|-------|------|-----|
| 授業の内容について っていない | 堺市調査 | 1.9 | 31.1 | 38.7 | 28.3 | 0.0 |
| | JASSO 調査 | 4.6 | 30.6 | 39.8 | 24.9 | 0.1 |
| 卒業後にやりたいこと がみつからない | 堺市調査 | 8.5 | 20.8 | 32.1 | 38.7 | 0.0 |
| | JASSO 調査 | 12.6 | 28.2 | 29.7 | 29.4 | 0.1 |
| 希望の就職先や進学先 へ行けるか不安だ | 堺市調査 | 30.2 | 34.0 | 18.9 | 17.0 | 0.0 |
| | JASSO 調査 | 33.7 | 36.2 | 14.6 | 15.4 | 0.1 |
| 経済的に勉強を続ける ことが難しい | 堺市調査 | 13.2 | 39.6 | 28.3 | 18.9 | 0.0 |
| | JASSO 調査 | 2.6 | 14.7 | 39.7 | 42.8 | 0.1 |
| 学内の友人関係の悩み がある | 堺市調査 | 8.5 | 16.0 | 34.0 | 41.5 | 0.0 |
| | JASSO 調査 | 3.5 | 14.4 | 36.2 | 45.8 | 0.1 |

6 奨学金の受給状況 (借入総額)

卒業までの奨学金の借入総額 (見込み) について、生活保護世帯の大学生の場合、「400 万円～500 万円」、短大・専修学校生では「300 万円～400 万円」の回答が最も多くなっている。奨学金総額が「400 万円以上」の大学生は全体の 74.1% (「500 万円以上」55.6%)、短大・専修学校生では「300 万円以上」の学生が 56.8%であった。(なお、当該設問は JASSO の調査項目にはない。)

(図表7) 卒業までの奨学金の借入総額 (見込み) (単位：%)

| 奨学金総額 (見込み) | 0～50 万円 | 50～ 100 万円 | 100～ 200 万円 | 200～ 300 万円 | 300～ 400 万円 | 400～ 500 万円 | 500～ 600 万円 | 600～ 700 万円 | 700～ 800 万円 | 800～ 900 万円 | 1000 万円～ | 合計 |
|----------------|------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------|-----|
| 大学 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 14.8 | 9.3 | 18.5 | 14.8 | 14.8 | 16.7 | 7.4 | 1.9 | 100 |
| 短大・専修学校 | 2.7 | 0.0 | 21.6 | 18.9 | 29.7 | 16.2 | 8.1 | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100 |